

(行政視察・**政務活動**・議員研修) 報告書

平成28年 3月17日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 佐藤 聡 一

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年 3月 3日(木) ～ 3月 4日(金)
調査・研修先	東京都千代田区 衆議院第二議員会館 会議室
調査事項 (研修事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方創生について</li> <li>・ TPP 妥結後の日本経済の見通し</li> <li>・ 国道4号線4車線化の見通し、及びスマートインターの設置時の自治体負担等</li> </ul>
対応者・講師等	まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官 鈴木顕氏 農林水産省 生産局畜産部牛乳乳製品課 課長補佐 金澤正尚氏 農林水産省 政策統括官付農産企画課 企画官 酒井利成氏 国土交通省 道路局国道・防災課 企画専門官 依田氏 国土交通省 道路局国道・防災課 係長 鳴海氏 国土交通省 道路局高速道路課 企画専門官 甲斐氏
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	<p>・ 地方創生について</p> <p>地方創生に関しては当市においても、白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略と人口ビジョンが策定され、盛んに議論がなされている。また、昨年10月に受講した市町村アカデミーでの研修においても、地方創生が大きなテーマとなり、それを念頭においた上での政策立案を行ってきた。今回の研修では地方創生の概要及び、今後への検討・改訂についての説明であった。基本的には地方創生の理念に則った先駆的・優良事業に対し優先的に財政支援がなされるという認識は変わらないが、当市においては人的支援に関してほぼ活用がなされていない、または活用しようとしていない点が気になった。まちづくり(地方創生)を行う上で人材の確保や育成といった「ひとづくり」は非常に重要であると思われる。今後当市において地方創生の検証・見直しを行っていくうえで考えねばならない。またRESASといった提供されている情報についても、当市において活</p>



用がなされているのか、活用していくのかも再確認する必要があると感じた。今回の研修では他自治体の先駆的事例などについても聞きたかったが、そこまで話が及ばなかったのは残念であった。

#### ・ T P P 妥結後の日本経済の見通し

T P P に関しては、現場の担当者による率直な意見を聞くことが出来た。米については国内におけるコメの安定的な生産を継続させるため、関税を守り国家貿易制度の維持、輸入量も国内消費量の1%程度に食い止めた点をあげ、T P P 協定発効後における影響を最小限に抑えることが出来たと語っていた。

一方、畜産関係については無傷とは言えないが、牛肉（和牛・交雑種）は関税の撤廃を回避したうえでセーフガードを措置、また品質格差もあり、当面において輸入量の急増を避けられるとの見込みだが、長期的には価格に影響が出るかもしれないとの話であった。ただし価格の安い乳用種は一定の影響は避けられないだろうとの見方をしていた。乳製品については、バター・脱脂粉乳等の当面の輸入量の急増は見込んでいないが、ホエイやチーズは関税撤廃により価格下落が生じる。よって加工原料乳の乳価の下落が懸念されるということである。ただし飲用の乳価は高く影響は少ないと見ている。今後の対策として畜産クラスター事業の見直しなど、畜産農家への支援事業により競争力の強化を図っていくとのことであった。

#### ・ 国道4号線4車線化の見通し、及びスマートインターの設置時の自治体負担等

現在工事が進んでいる蔵王町宮の国道4号線の工事は、用地買収が100%完了し平成30年の開通を予定しているとの事であった。ただし白石市越河の2車線区間における付加車線整備事業は現在まだ時期が決定しておらず、用地買収が7割程度済めば目途が立てられるとのことであった。

スマートインターの設置は当市の市議会においても幾度も一般質問などで議論がされてきた課題であるが、今回、具体的な事業の進め方などを聞くことが出来た。現在日本の高速道路のインターチェンジ（I C）の間隔は約10kmであるが、今後平地部でのI C間隔を欧米並みの5kmを念頭に整備していくということで、現在整備中のスマートI Cが全国で71か所ある。白石I Cと国見I Cの間隔も長く5kmという基準を考えるのであれば、白石市にもう一ヶ所のI Cの整備は必要であると考え。よく既存のS A・P Aへの設置

が多いという話を聞くが、設置事例の半分程度はどちらも無い場所への設置である。スマートインターの設置が優先的に行われているのは、高速道路の有効活用によるまちの活性化、国道への直結などの利便性・必要性が重要となってくるとの事であった。費用対効果を重視するわけではないがコストは考慮するという話もあり、設置場所はどこでも可能だというわけにいかないようにも感じられた。事業の費用に関しては自治体負担となるのは料金所までの接続道路であるが、現在のスマートインターは車種制限を設けず、大型トレーラー等にも対応出来るようにせねばならず、接続する道路も重要だということであった。当市においても設置した場合の効果やスマートICを設置したあとのまちづくりを考え、設置場所による幹線道路への接続性・コストの変化等を検証していきながら、前向きに検討するべきと考える。

今回の東京研修では上記の研修以外に、当選挙区選出の西村明宏衆議院議員との面会、また議員会館で県内の議員を訪ねた。土井亨国土交通副大臣とはスマートインターチェンジ等道路整備についての意見交換も出来た。市議会議員の活動において国会議員等への陳情や意見交換も重要な政務活動と考える。ちなみに高階恵美子参議院議員からは、西の方々と比べ東北の皆さんは押しも執拗さも弱い、もっと煩がられる位で良いと助言をされた。今後さらに積極的な政務活動を行っていかねばならない。